**第6回　泉佐野丘陵地緑地 運営審議会**

日時：平成28年3月10日（木）10:00～12:00

場所：府庁本館5階　正庁の間

◆出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　増田昇（会長）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　下村泰彦

うみべの森を育てる会　代表　西台幸子

大阪ガス株式会社　　特任研究員　弘本由香里

元大阪府立大学大学院　教授　前中久行

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　代表　松井弘

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　事務局長　大家清信

◆欠席委員（敬称略）

大輪会事務局　大西　弘薫

大阪市立大学大学院環境都市工学科准教授　嘉名光市

泉佐野市都市整備部　部長　真瀬三智広

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　副代表　山本喬

◆傍聴者　1名

◆概要

1．開会　10:00〜

2．前回のふりかえり　10:05〜

3. 協議案件 4件　 10:10〜

 　　①持込み型プログラムについて

　　②向井池北側エリアの修景について（どんぐりの森づくりプログラム）

　　③公園の評価について

　　④利用者層の拡大について

4. 報告案件　5件

①プログラム報告（1〜2月）

　　②向井池東側エリアについて（境界柵について）

　　③企業の森活動について

　　④平成27年度工事の進捗について

　　⑤その他

5. 閉会　　　　　　12：00

＜**協議案件1：持込み型プログラムについて**＞

事務局より持込み型プログラムについて説明。

**下村委員**

・郷の棚田プログラムについて、新規応募団体の活動人数は把握しているか。

**事務局**

・プログラム実施時のメンバー表はまだ受け取っていない。打合せの段階で把握している情報では、「B＆K」は2名。「緑の地球ネットワーク」は不明。「優しいママ」は3名。「セナちゃんの花畑」は3名。「優しいママ」は実施状況を見ながら参加人数を増やしていきたいという意向を聞いている。

**増田会長**

・綿づくりの企画について、大阪綿業会館では種を配布しているので利用するとよい。綿摘みのプログラムを行っている団体や糸車などの道具を持っている団体と連携したらよい。糸紡ぎなどのプログラムにつながれば、おもしろい。綿の出来具合をみて考えるとよい。

・郷の棚田の空きスペースは、レンゲ畑なども検討していただきたい。ソバやヒマワリが終わったあとに植えるのもよい。レンゲは花飾りを作るなどの昔ながらの遊びがあるので、来年の春先のイベントにできる可能性がある。

**事務局**

・次年度以降の持込み型プログラムは、今年度に審査のノウハウが蓄積されたことを踏まえて、事務局で審議した上で報告案件として運営審議会に提出する形としたい。

**増田会長**

・基本的にその形で運用する。ただし、新しいタイプの活動など判断に迷う場合は、情報を蓄積していく必要があるため、運営審議会で審議を行う。

＜**協議案件２：向井池北側エリアの修景について（どんぐりの森づくりプログラム）**＞

事務局より、どんぐりの森づくりプログラムについて説明。

**前中委員**

・企業の森エリアにある大きなコジイも、ひろい意味ではドングリが採れるので、対象に含むことができる。

・苗木の育成に関しては、簡単なパンフレットのようなものを作るとよい。特に発芽について解説する必要がある。ドングリは植えた年の間に芽が出る種もあれば、次の年に出る種もある。また子どもたちがよく知っている朝顔とは違い、双葉が出ない。そのような内容を解説しておくべきである。

**増田会長**

・園内にあるドングリは全てリストアップしておくとよい。

**弘本委員**

・子どもたちがドングリを育てるだけでなく、どんな種類があるかを知り、学習が深まるようなプログラムにするとよい。

**増田会長**

・植生回復については、例えばアラカシの単相林になってしまったという事例もある。極力多様性のある森を目指したい。

**下村委員**

・区画が20箇所ほどに仕切られている。区画ごとに樹種を決めてグループごとに1種類ずつ植えるのか、あるいは常緑樹と落葉樹を混ぜながら植えていくのか。

・期間はどのように想定しているのか。20団体が1度に参加すれば1年で植樹が終わる。5団体が段階的に参加するのであれば毎年植樹を行うことになる。

**事務局**

・区画はグループごとに割り振る予定である。様々な種類を植えたいが、20区画全てを別の種類で同時に進行することは難しいと考えており、数カ年に分けて進めていきたい。

**増田会長**

・植える苗の大きさも影響する。区画内に密度高く植える方法もあれば、将来の成長を見込んで50cm四方程度に1本ずつ植える方法もある。どちらにするかは考えておくべきである。

**前中委員**

・どのドングリが大きくなるのかは、全くわからない。2種類植えたとしても、1種類になる可能性がある。大きな苗だけ育つ場合がある。場所や苗の種類と大きさなどの組み合わせによって結果が変わる。思った通りにはならないが、それも楽しみの1つであることを認識しておくべきである。

・20か所の区画に対して間隔を空けながら植えると、最初の樹が大きくなり、後から植えた樹が育つのが難しくなる可能性がある。端から詰めて植えていくほうがよいかもしれない。

**増田会長**

・小学校だけでなく、自然学習を取り入れている保育園や幼稚園にも広報するとよい。近年、3歳などの多感な時期に自然と触れ合うことが重要視されている。校長会などを利用するとよい。

・支援学校や作業所など福祉施設の方が、心身の回復を目的として公園を利用されることもある。今後はそのような層に対するアプローチも考えることができるとよい。

＜**協議案件３：公園の評価について**＞

公園の評価について、事務局より説明。

**下村委員**

・管理は維持管理と運営管理に区分されるが、コラボレーション区域の維持管理内容についてはパーククラブが担っている部分もあるので、記載方法には工夫が必要である。

**増田会長**

・「つくり続ける」公園である限りは、パーククラブが園路や果樹園を新しくつくり続けることができる場所である。これは公園管理ガイドブックで対応できる内容ではない。公園緑地マニュアルについても反映させた内容でなければ、つくり続ける公園の項目を整理することはできない。現在、この項目を大阪府立大学の大学院生が堺自然ふれあいの森を題材に、整理している。今の内容では、ハードの整備は公共工事で行い、その後の維持管理をパーククラブが担っているように見えるが、パーククラブもハードの整備を担っている。

・管理項目に施設の補修とあるが、園路沿いの雑草も放置しておくと樹勢がすぐに戻ってしまう。竹林も同様である。パーククラブも悩みながら園路の補修に取り組んでいるはずである。パーククラブは新しい整備と良好な維持管理と、プログラムの運営という3つの課題に取り組んでいる。そのことがわかる項目を検討すべきである。また、パーククラブの年間計画も反映する必要がある。

**下村委員**

・指定管理者の評価項目と比較すると、不足する項目がある。指定管理者の場合、災害対策を含めた安全管理、機器のメンテナンスに関する項目、職員研修や利用者を含めた防災訓練などもある。指定管理者の項目も参考にし、整理すべきである。

**増田会長**

・今回の項目は協働部分を中心に整理されているので、府の業務として評価すべき項目についても整理する必要がある。他の指定管理者による公園の運営状況を、府の職員が研修として学ぶこともよいかもしれない。

・従来とは異なり、協働にかかる人員を手配する必要がある。しかし整備段階での協働に対して本庁の理解がなければ、人員の手配も難しい。他18公園との違いを明確にすべきである。

**松井委員**

・落石対策の設計委託について、コラボレーション区域の入口が該当箇所だが、来園されるお客さんをどのように誘導されるのか。例えば谷口池の方角に迂回するなど、何か方法を考えていただきたい。

**増田会長**

・落石対策については、工法も検討すべきである。植生を残しながら行うのか、ネットなどを用いて行うのか。落石対策をする必要性が本当にあるのかも含めて、検討すべきである。

**事務局**

・工事に関しては調査の段階で、落石対策の必要な箇所のみ抽出する。場所によっては浮石除去で済む部分もあると考えている。

＜**協議案件４：利用者層の拡大について**＞

**弘本委員**

・各地域で生涯学習に盛んに取り組んでいる人たちが増えており、屋外でのボランティア活動を望んでいる人たちも増えている。そうした人たちが集まる場所にも情報を提供するとよい。

・写真の撮影講習なども人気を呼ぶ可能性がある。写真コンテストもよいだろう。そうすると、普段と違う人たちが公園に足を運んでくださる。

・最近ではDIYや、「林業女子」と呼ばれるように林業に取り組む女性も増えている。女性は整備活動が苦手と決めつけずに、広い視野で検討すべきである。

**西台委員**

・うみべの森を育てる会では3分の1が女性であるが、後期高齢者もいる。ハープを育てるチームもあるが、中には男性陣の中で活動するほうがいいという人もいる。ハーブのチームがイベントをやると女性が多いといわれているが、体を動かす活動に女性が1人で参加することもある。

**増田会長**

・パーククラブでは、農活動に対する女性の参加はどのような状況か。他の公園では、農活動に積極的に参加する女性の姿もよく見られる。

**松井委員**

・パーククラブ内では限定的である。しかし先日、果樹を植える活動に対して興味があるという若い女性が1人参加された。苗木を植えるために一緒にスコップで土を掘ってくださった。家ではできないことなので、興味をもって参加されたということだった。

**増田会長**

・女性の参加については、広く間口を設けるとよい。パーククラブの中では、花苗チームを新設できる可能性はあるか。

**松井委員**

・花苗をやりたいという人もいたが、ハーブのようなものであり、コラボレーション区域のイメージとは違っていた。しかし適切な花苗であれば、チームを作るのもよいと以前から思っている。

**増田会長**

・花好きの人と里山好きの人とでは、花に対するイメージも異なる。生駒市での花づくりの活動で、花苗と里山のクラブは分けて考えたほうがよいという話をしたことがある。今の花壇を作っている園芸品種の上位100種を見ると、そのうち日本の品種は1〜2種類しかない。その他は全て外来種である。これは従来の山野草の中での花づくりと大きく異なる。花苗を考える上では、この違いを認識しておくべきである。

**松井委員**

・花壇づくりチームを新設するという場合、コラボレーション区域は自然のままの姿を保つのか、あるいは人の集まりやすい郷の館の周辺には花壇を作るほうがよいと考えるのか。このような点も明確にしておく必要がある。

**事務局**

・コラボレーション区域を園芸品種で飾ろうという意識はない。パークセンターのエントランスや、公園のみならず関空や大阪市内など、色んな場面で活動してもらえるチームというイメージである。

**増田会長**

・まずはクラフトの講習などから始めていくとよい。また昆虫観察や野鳥観察も、子供だけでなく親子で参加していただけるようなプログラムにしていくとよい。そうするとファミリー層の増加も見込まれる。

**前中委員**

・竹細工の講習を行っていると書かれているが、マダケはどの程度あるのか。

**松井委員**

・マダケは少しだけある。ただ群生しており管理はできていない。竹細工で使うには節の長いマダケがよいが、数は少ない。

**前中委員**

・竹細工で活用することを見越して、マダケの育成にも取り組むことも考えるとよい。

**増田会長**

・プログラムの素材としての資源という視点で植生を考える、という方法もある。

＜**報告案件１：プログラム報告（１〜２月）**＞

公園全体のプログラムについて事務局より、パーククラブの報告について大家委員より報告。

**増田会長**

・もちつき体験に使う道具はどのようにして準備したのか。

**事務局**

・石うすは地域団体からお借りし、杵はパーククラブの方が作ってくださった。

＜**報告案件２：向井池東側エリアについて**＞

向井池東側エリアの境界柵について、事務局より報告。

**増田会長**

・アライグマは実際に見たことはあるのか。

**松井委員**

・実際に見てはいないが、昨夏にレンジャー畑のスイカを全て盗られたことがある。

＜**報告案件３：企業の森活動について**＞

企業の森活動について、事務局より報告。

**増田会長**

・現地体験会の当日は、活動開始前に企業の森の趣旨などは解説されているのか。

**事務局**

・活動を始める前に、ガイダンスとして趣旨などを説明している。その後、パーククラブから竹の切り方などを教えていただいている。

**松井委員**

・企業の森エリアを対岸から見たが、まだ竹林が厚いためコジイは見えなかった。しかし伐採した竹はすべて外に出していただけたので、竹の量は随分減っているはずである。

・コジイの周辺に杉やヒノキが数本あり、そのすぐ近くには松が1本ある。対岸からみると、この松の木のほうが目立っている。

**増田会長**

・タケノコ掘りイベントに関しては、竹林の育成には3年間ほどかかわらないと意味がないので、可能な限り1回きりではなく継続して参加していただけるよう工夫するとよい。

＜**報告案件４：平成２７年度工事の進捗について**＞

平成27年度工事の進捗について、事務局より報告。

**増田会長**

・水辺の拠点施設が完成した際には、観察会のようなプログラムは開催されるのか。

**事務局**

・未定であるが、検討していきたい。

＜**報告案件５：その他**＞

**商工労働部**

・民活地の整備について、現在は許可申請を事前協議している段階である。現地では泉佐野市の開発要項に基づき看板が設置されたが、その他の作業はまだ進んでいない。埋蔵文化財の試掘調査が必要であり、次回の運営審議会前には着手されている可能性がある。調査のための通路は公園の主要通路から入らざるをえないので、公園と調整する必要がある。

**松井委員**

・向井池に集まるカワウが問題になっていると報告してきたが、最近はまた少なくなっている。大阪府の職員が夜間巡回された影響もあるのかもしれない。ただ明確な対策が見出せておらず、引き続き経過を観察したい。

以上